

I 財政状況

1 決算収支の状況

- (1) 決算収支
- (2) 歳入決算規模
- (3) 歳出決算規模

(1) 決算収支

(単位：百万円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歳入決算額 A	29,159	29,612	31,136	33,604	34,486	31,457	37,092	34,491	34,537	32,150
歳出決算額 B	27,018	28,608	30,081	32,549	33,492	30,506	36,288	33,758	33,886	31,383
形式収支 (A-B) C	2,141	1,004	1,055	1,055	994	951	804	733	651	767
翌年度へ繰り越すべき財源 D	1,471	313	395	408	382	205	147	92	85	31
実質収支 (C-D) E	670	691	660	647	612	746	657	641	566	736
単年度収支 (E-前年度実質収支) F	50	21	△31	△13	△35	134	△89	△16	△75	170
積立金 G	173	313	637	87	112	98	134	86	90	4
繰上償還額 H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
積立金取崩額 I	1	33	2	298	199	26	200	650	620	25
実質単年度収支 (F+G+H-I) J	222	301	604	△224	△122	206	△155	△580	△605	149

傾向分析

歳入・歳出決算額は、人口増に伴い概ね増加傾向にありますが、普通建設事業の影響を受けて増となることもあります。26年度は南山小学校の建設に伴い大幅な増となりました。

形式収支については、20年度が翌年度に繰り越すべき財源として定額給付金などが入ったため大幅な黒字決算となりましたが、その後は6～10億円程度の黒字決算が続いています。

形式収支及び実質収支は29年度においても例年通り黒字となっていますが、実質単年度収支は、積立金取崩額の減などにより25年度以来の黒字となりました。

実質収支比率は、財政規模に対する収支の割合を示しており、29年度は4.2%の黒字となっています。

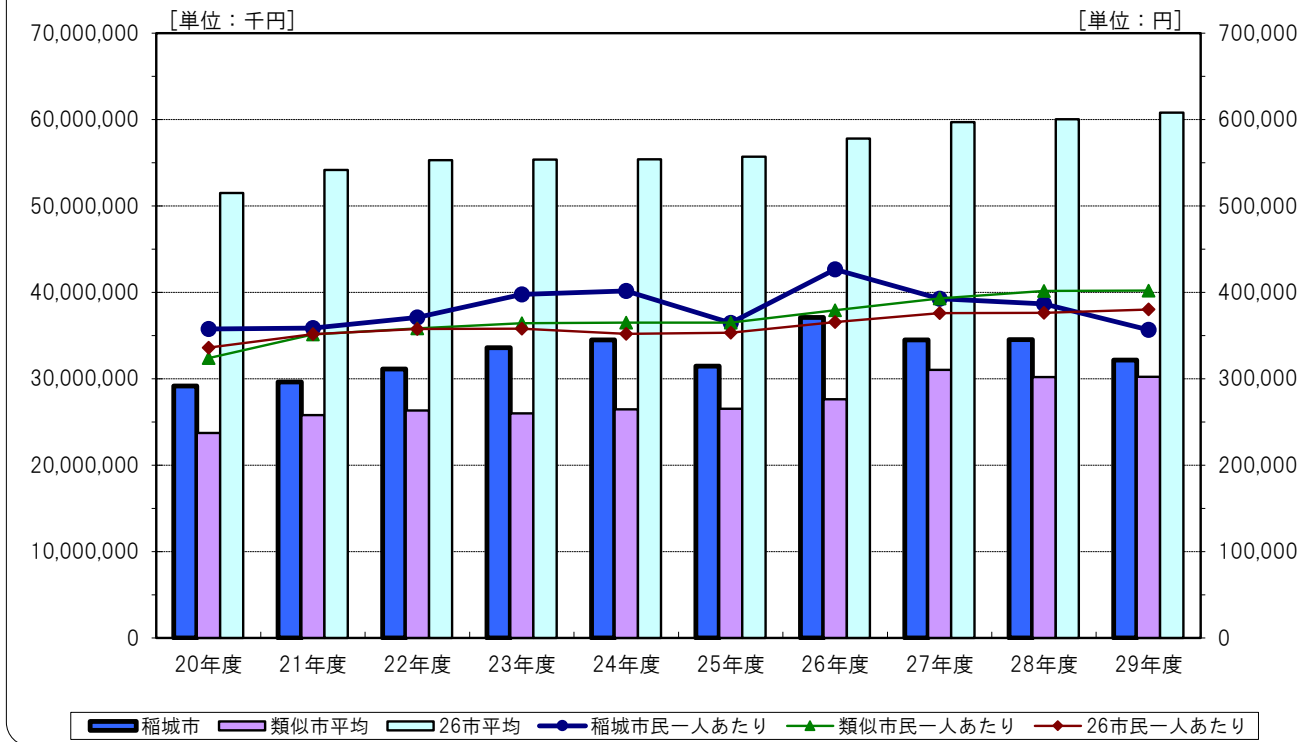
【参考：実質収支比率の算式】

$$\frac{\text{実質収支 (E)}}{\text{標準財政規模} + \text{臨時財政対策債発行可能額}} \times 100 (\%)$$

29年度決算26市比較データ 実質収支比率（抜粋）

No.1. 小金井市	11.0%
No.3. 東大和市[類似市]	8.5%
No.6. 清瀬市[類似市]	7.3%
No.18. 福生市[類似市]	4.6%
No.20. 稲城市	4.2%
No.23. あきる野市[類似市]	3.8%
No.24. 国立市[類似市]	3.5%
No.26. 東久留米市	3.0%

(2) 歳入決算規模



(単位：千円、円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
稲城市	29,159,076	29,611,586	31,135,509	33,603,714	34,485,823	31,457,126	37,092,369	34,490,686	34,537,388	32,149,998
市民一人あたり	357,495	358,741	371,089	397,668	401,741	364,644	426,594	392,707	386,566	356,632
類似市平均	23,716,346	25,789,474	26,333,012	25,988,411	26,465,216	26,541,610	27,637,562	31,028,007	30,198,056	30,224,573
市民一人あたり	323,857	351,303	358,419	364,300	364,886	365,019	379,371	392,894	401,677	402,094
26市平均	51,494,213	54,162,466	55,288,374	55,383,591	55,385,853	55,713,869	57,805,061	59,688,053	60,025,909	60,794,005
市民一人あたり	336,025	351,702	357,775	358,071	352,126	353,362	365,496	375,846	376,317	380,138

傾向分析

歳入総額及び市民一人あたり額の26市平均は、増加傾向にあります。

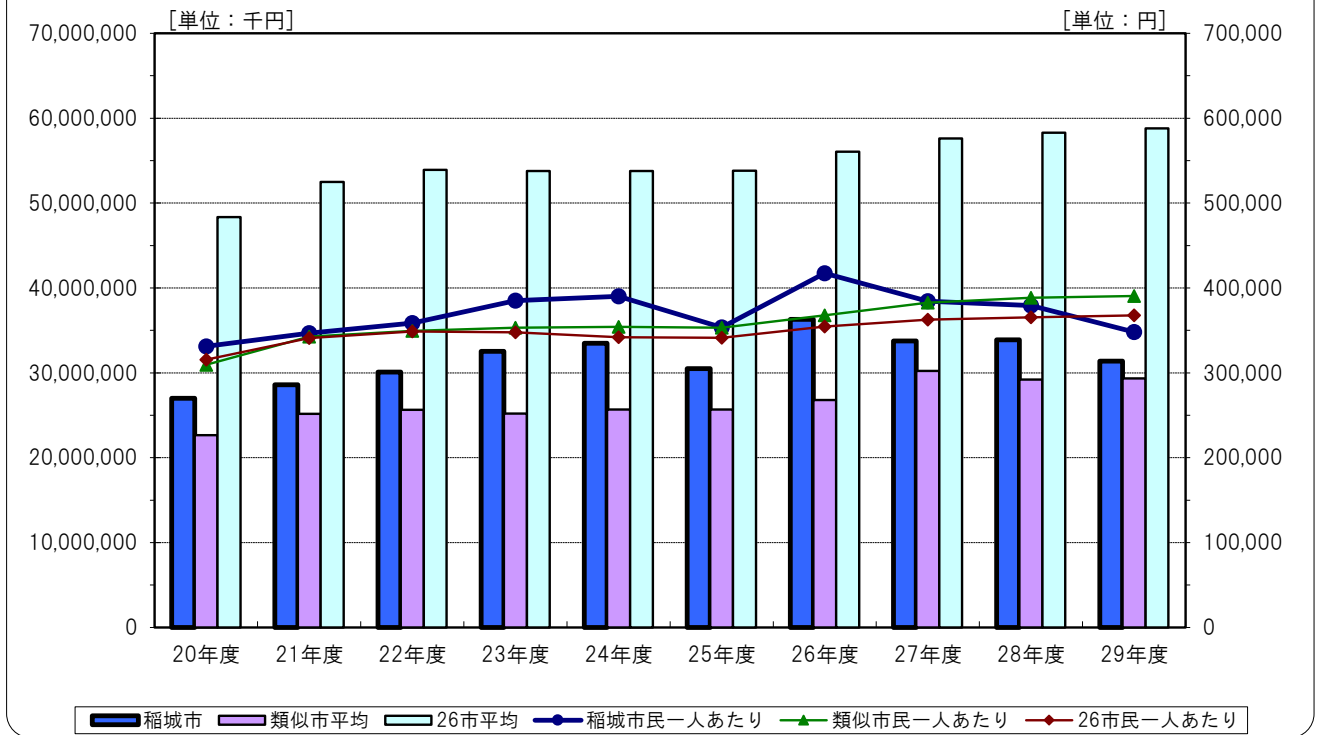
稲城市は、普通建設事業の実施状況によって国庫支出金、都支出金、市債などが大幅に増減しているため、年度によるバラつきが見られます。26年度は、南山小学校の建設事業に係る補助金や市債の収入があったため、大幅な増となっています。

29年度は、地方税や都支出金が増となった一方で、財政調整基金などの繰入金や、第二小学校校舎大規模改修等事業債、消防出張所新築事業債などの市債が減となったことなどにより、前年度比2,387,390千円（6.9％）の減、市民一人あたり額29,934円（7.7％）の減となっています。

29年度決算26市比較データ 市民一人あたり額（抜粋）

No.1. 国分寺市	463,498円
No.2. 武蔵野市	458,346円
No.3. 福生市[類似市]	455,002円
No.7. 清瀬市[類似市]	413,430円
No.9. 国立市[類似市]	394,339円
No.11. 東大和市[類似市]	385,412円
No.13. あきる野市[類似市]	378,348円
No.21. 稲城市	356,632円
No.26. 小平市	335,714円

(3) 歳出決算規模



(単位：千円、円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
稲城市	27,017,791	28,608,306	30,080,806	32,548,785	33,492,126	30,506,111	36,287,991	33,757,626	33,886,137	31,382,711
市民一人あたり	331,242	346,587	358,519	385,184	390,165	353,620	417,343	384,361	379,277	348,120
類似市平均	22,664,266	25,159,650	25,660,890	25,193,362	25,694,961	25,678,190	26,793,187	30,226,622	29,213,581	29,356,692
市民一人あたり	309,490	342,723	349,270	353,155	354,267	353,144	367,781	382,746	388,582	390,548
26市平均	48,353,113	52,498,227	53,910,102	53,785,288	53,794,131	53,825,927	56,068,833	57,609,646	58,281,669	58,804,142
市民一人あたり	315,528	340,895	348,856	347,738	342,006	341,388	354,518	362,758	365,382	367,696

傾向分析

歳出総額及び市民一人あたり額の26市平均は、歳入決算規模と同様に増加傾向にあります。

稲城市でも、歳入決算規模と同様に推移しており、普通建設事業の実施状況によって、年度によるバラつきが見られます。26年度は、南山小学校の建設事業を実施したため、大幅な増となっています。

29年度は、第二小学校校舎大規模改修、中央公民館ホール大規模改修、稲城市消防出張所新築工事などの工事請負費が減になったことなどにより、前年度比2,503,426千円(7.4%)の減、市民一人あたり額31,157円(8.2%)の減となっています。

29年度決算26市比較データ 市民一人あたり額(抜粋)

No.1. 国分寺市	452,234円
No.2. 福生市[類似市]	445,823円
No.6. 清瀬市[類似市]	398,095円
No.9. 国立市[類似市]	386,719円
No.12. あきる野市[類似市]	370,244円
No.13. 東大和市[類似市]	368,833円
No.20. 稲城市	348,120円
No.25. 小金井市	332,390円
No.26. 小平市	327,618円